特集 はこまち対談

Part 22

函館で学んだことを、 活かしたい。

佐々木 瞳（ささき ひとみ）さん　現在 22 歳

〈PROFILE〉

北海道教育大学函館校地域創生専攻・地域計画分野卒
所属サークル：硬式テニス部、まちワーク研究室
趣味：出掛けること、読書
進路：金融業

峯　麻人（みね あさと）さん　現在 22 歳

〈PROFILE〉

北海道教育大学函館校４年　地域創生専攻卒
所属サークル：函館セパタクロークラブ
趣味：サッカー観戦
進路：公務員

今回は、4月から新社会人となる学生さんに函館生活のことなどをお聞きしました。

丸　藤：　もうすぐ卒業ですね。どんな学生生活でしたか？

佐々木：　青森の実家から離れて初めて１人で生活するということで、自由を手に入れたとか解放感があったのと同時に、イベントとか市民活動などいろんなことに関わりいろんな人と出会えた4年間だったと思います。

丸　藤：　具体的にはどんなことをしたんですか？

佐々木：　まちワーク研究室では、子どもたちと一緒に西部地区を探検したり新聞づくりをしたりです。バル街や映画祭にも参加しました。

丸　藤：　大人の人たちが作っているイベントにも参加したんですね。

佐々木：　普段普通に仕事をしながら、市民の方がいかに楽しむかというのを目標に笑顔で活動している姿を見て、私も将来的には仕事をしながらも楽しみを見つけられる人になりたいなと思うようになりました。

丸　藤：　峯さんは？

峯　：　色々刺激的な毎日が続くのかなと思ったのですが、その刺激は自分で決断し得ていかなくてはならないと考えました。そこで、セパタクローやダーツとかボルダリングという岩登り等も始められたので、それなりに刺激があることはできたかなと思います。

丸　藤：　ずいぶん珍しいことにも挑戦したんですね。

峯　：　実は北海道はセパタクローが盛んな地域で、函館のクラブに入っている方で４０人くらい。毎年、札幌・室蘭・函館の団体が集まって大会を開いているんですよ。同じ足で蹴るスポーツですが、サッカーとは違う楽しみ方ができます。

丸　藤：　函館生活で感じたことは？

佐々木：　実家の辺りでは、車とか電車とかを使わなくてはあちこち行くことができなかったのですが、函館に来て、好きな時に自転車でいろん

なところを巡れるので凄く面白いなと思いました（笑）。

丸　藤：　期待以上だったとか、期待外れだったとかはありましたか？

佐々木：　期待以上だったのは景色とか観光名所とかお出かけスポットとかイベントとかいろんなことがあって凄く面白かったことです。でも、それだけ恵まれているのに、普段の買い物をするのが難しいのが期待外れでした。

峯　：　西部地区やレンガ倉庫のような観光の魅力とか、人を呼び寄せる魅力を持っているというだけで素晴らしいと思います。観光に力を入れていることは分かるのですが、今後は住民がもっと生活しやすいように、交通機関の整備も必要だと思います。

丸　藤：　誰かから、函館の大学に進みたいと相談されたらどうします？

佐々木：　函館は市民活動に参加しやすい雰囲気があり、開かれています。色んな人と出会えるし、発見できるよと教えてあげたいです。

峯　：　やりたいことができる街で、活動団体も揃っています。ぜひ来て、学生生活を楽しんでもらいたいです。

丸　藤：　函館で学生生活を楽しむコツを教えて下さい。

峯　：　例えば、全国の大学には多くあるフットサルのサークルが私の大学にはありません。市内にフットサルコートもない。でも、若者が声をあげれば動き出すかもしれない。そういう動き出させる場をつくっていければ良いと思います。

佐々木：　たくさんの方に出会うと思いますが、一回でも関わったら挨拶をするように心がけること。そのことで、違う立場の人とも結びつきやつながりができます。そのことが、将来に活きてくると思います。

丸　藤：　やり残しちゃったことはありますか？

佐々木：　挨拶をしそびれて疎遠になってしまった人がいます。仲良しになれていたら、もっと色んなことが出来ていたかもしれません。これからかは、そういう風にならないように先入観なしに好意を持って接して行けるようにしたいです。

峯　：　友人にネットワークづくりが上手な人がいて、そういう風な性格をもっと吸収したかったと思います。

丸　藤：　二人とも青年センターでアルバイトをしていましたが、そこから得たものはありますか？

峯　：　サークル活動というのは学校の中だけで完結しているものだと思っていたのですが、青年センターには若者からお年寄りまで来られるので、閉じたものではなく開かれたものだと知りました。

佐々木：　事務関係は初めてだったのですが、責任感とか細かな注意力、気遣い等が必要だったので自分に無いものが見えてきました。社会人になったら、もっと責任感を持てるようにと思います。

丸　藤：　４月からは新社会人ですね。

佐々木：　仕事に早く慣れたいという気持ちはもちろんですが、仕事をしていても自分の趣味とか楽しいことを持っている人になりたいと思います。

峯　：　街には、年代、考え方、性格などが違う様々な人がいるので、それぞれのニーズに合った働き方ができる社会人になりたいです。

丸　藤：　学生生活で学んだことは生かせそうですか？

佐々木：　接するのが難しいなと思う人がいたとしても、自分からは嫌な行動をおこさないで、明るく元気に自分の好きな人と同じように接したいなと思います。

峯　：　色々な立場や思いの人がいる時の調整をしたことがあります。そういう人の思いをうまく活かしていくところは必要だと思います。

丸　藤：　最後に、一言ずつメッセージを。

佐々木：　私は就職で函館を離れますが、これからの函館が観光の面でも住むことでも、もっと良くなることを祈ってます。

峯　：　函館は自分のやりたいことを何でもできる街ですので、自分で制限をかけずにどんどんチャレンジしていって欲しいです。

丸　藤：　これからの活躍に期待しています。頑張ってください。

佐々木・峯：　ありがとうございます。

〈聞き手〉 函館市地域交流まちづくりセンター
センター長　**丸藤 競**